

## (2) 柵網漁獲試験

1985年6月17日から22日まで例年と同様に定点(図1)において柵網漁獲試験を実施した。結果は表4に示すとおりで、取り上げは6月18日から22日の5日間おこない合計23種類、31個体、約7.52kgの漁獲があった。エイ類やウミガメがしばしば採捕されて魚類の漁獲量が減少した。また、アイゴ類などがほとんど採捕されず、調査時期の設定なども漁獲量に影響しているものと思われる。

## (3) 名蔵湾定置網漁獲調査

保護水面周辺海域における漁獲量の動向を調査するため、名蔵湾内定置網漁業の漁獲量について調査した。方法は各漁業者が保有している沖縄県漁連市場出荷計算書などに基づいたが、地元消費分については資料がないため調査できなかった。

名蔵湾内定置網の1986年2月24日現在の設置状況は図10に示すとおりで、支柱のみで

網を設置していないものもあった。湾北部から北東部にかけてかなり高密度に設置されている。漁業者の保有していた資料から1985年度の魚種別漁獲量の変化を図11に示す。資料が紛失しているために周年にわたる調査は不可能であった。だいたいの傾向としてはフェキダイ類やハタ類は夏季に多く漁獲されるようである。

また、ミナミクロダイ、シマアジ類、およびイカ類は周年にわたって漁獲される傾向がみられる。アイゴ類では5月21日から23日の新月時にシモフリアイゴが、また5月27日から31日の小潮から中潮時にはゴマアイゴが一時期大量に漁獲されているのは特徴的である。資料が不十分なためより詳しい検討は次年

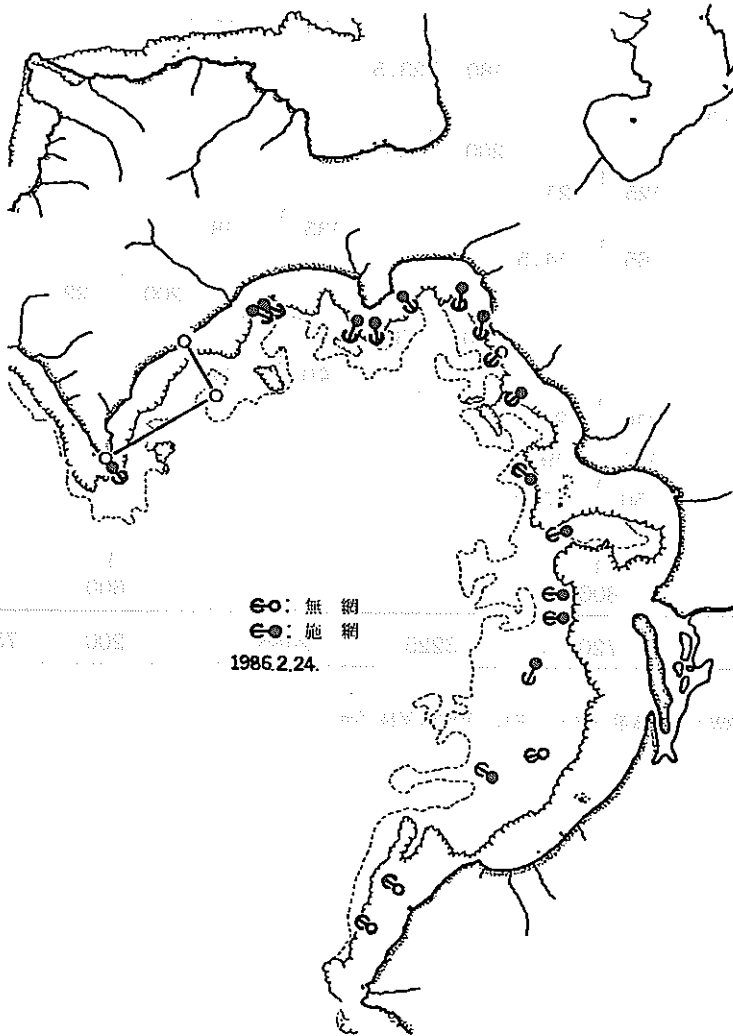


図10 名蔵湾内の定置網設置位置

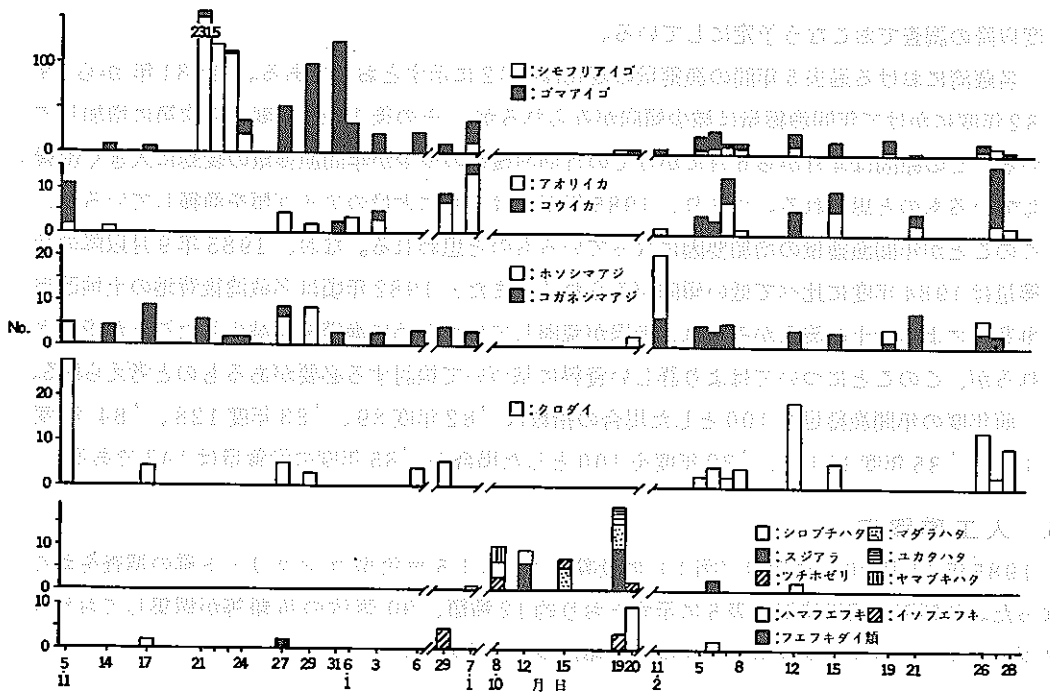


図 11 昭和 60 年度の名蔵湾定置網における魚種別漁獲量の変化

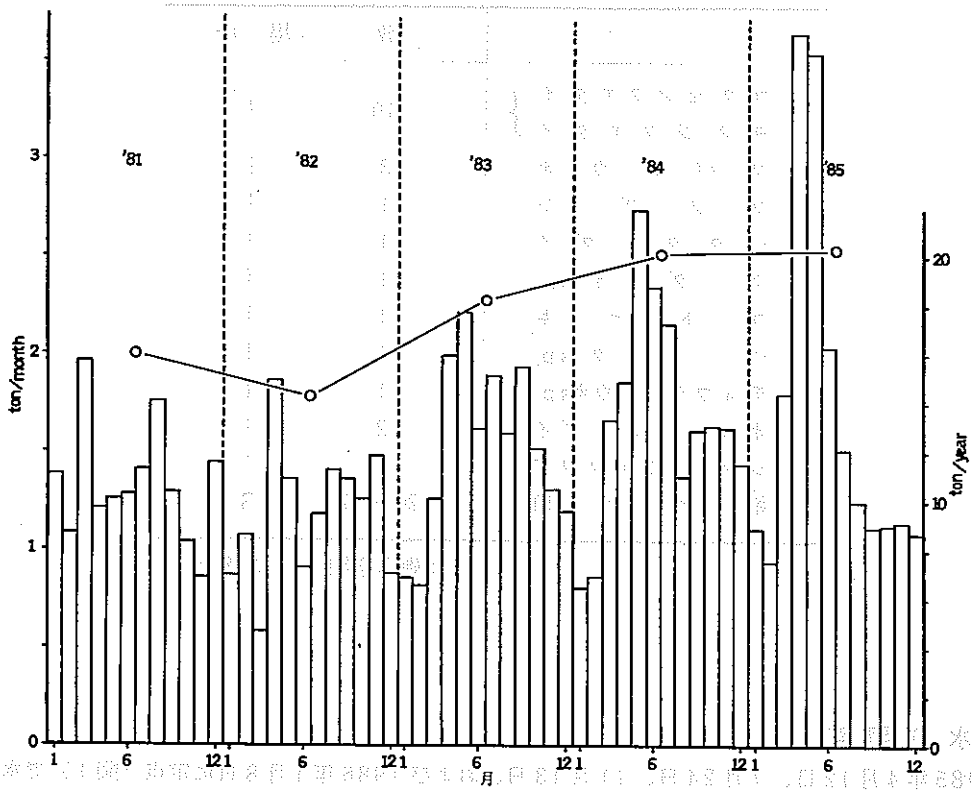


図 12 名蔵湾における定置網漁獲量の過去 5 年間の変化